

## 1. 開会

## 2. 出席者紹介

## 3. 報告事項

「プラスチック問題解決のためのキャッチフレーズ及びアイデア募集」結果と活用について

- ・キャッチフレーズ及びアイデアの応募状況等について
- ・キャッチフレーズの審査結果等について
- ・アイデアの概要等について

**浅利委員長：** この場限りの部分もあるかと思いますが、まずはかなりたくさんのご応募をいただき、アイデアも私的には思ったより来たと思っており、大変うれしく思っております。この後これをどう生かしていくかという部分も含めた話に入っていくかと思いたすけれども、まず皆さんからこの審査の結果を受けていくつか決めなければいけないこともございますので、話を進めていきたいと思いたす。

またご質問等も後でお受けしますが、最初に審査の結果、皆さまからの合計得点が最も高かった作品が「プラゴミを減らして守れ！うちな一美ら海」となっております。こちらに関して何かご意見等があればお願いしたいと思いたす。

1点、私の方からは、プラごみのごみという字が片仮名表記になっておりますので、できましたらこれを平仮名にさせていただけないかなと。応募者にも確認を取って平仮名表記にできないかと事務局にも事前にご相談していたところでございます。また、この点についてもご意見をいただけたらと思いたす。

**原田委員：** ごみを平仮名にというのは昨今、国や各自治体の施策でも平仮名表記が多いので。あと本文を拝見していると、ずっと「ごみ」は平仮名表記ですので、ご本人のご承諾を得た上で私も変更していただけたらよいと思いたす。

**浅利委員長：** 私も学生のころに「ごみ」を片仮名表記にしていたのですが、特に関西においては、「ごみ」に関わる仕事の方を若干蔑視するという意味合いから片仮名にしているのではないかというご指摘などもあり、平仮名にしているという経緯もございまして、ご理解いただけますとありがたいと思いたす。

**常盤委員：** 前の問題と同じですが、プラスチック問題解決のためにということでアイデアを募集されていますが、回答はプラスチックごみ問題解決という流れが多いですね。やはり捉え方として一般の人は、プラスチック問題というと、「プラスチックごみ問題」になってしまうのかなと。回答のいろいろなアイデアを見ても、ほとんどが「ごみ問題」「プラスチ

ックごみ問題」となっているところが非常に気に掛かります。これはおそらく最後の提案のところの問題とも関係していると非常に基本的な問題で、前回会議でごみ問題だけではなく、プラスチック問題という流れになりましたが、もう少し大きな目でプラスチックを見ないとミスリードするのではないかと心配しています。

**浅利委員長：** これは、基本的には思い描いたものをできるだけ原型を生かすかたちで審査して選ぶということで、いったん総意の下ということと。ただ、このキャッチフレーズに関しても皆さまどうのご視点から評価されたかですが、最終的に環境を守るといふか、美しい沖縄を守るといふビジョンみたいなものも含まれている点なども評価いただいているとは感じております。

自由意見の中には、今のご意見のようにプラスチックの在り方そのものに対しても、もちろん「敵ではない」といふご意見も含めて多様なご意見を引き出していただけていると感じております。いったんこのキャッチフレーズに関しましては、このようなかたちで決めさせていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。赤嶺委員、大丈夫ですか。うなずいていただいております。

ということで、これに関しては、いったん平仮名表記への変更に関しても応募者の方に確認し、ご理解の上で最終決定させていただきたいと思っております。

それ以外に、資料2のご報告、キャッチフレーズとアイデア募集関連で何かご質問はございますでしょうか。結構県外からの応募も多かったり、だいぶ若い世代が多かったこともよかったですと思っております。

村上委員、どうですか。思ったより多かったでしょうか。

**村上委員：** 数は想像していませんでしたが、たくさん集まってよかったと思います。また、キャッチフレーズも、私が思っていたものがトップに来ていたのでうれしいです。ただ、今常盤委員がご指摘されたように、プラスチック問題とプラごみ問題で、プラごみ問題に矮小化しないようにという視点は、提言をこれから編集していく上でとても重要なご指摘だと思いました。

あと、アイデアの中で、ファクトをまず知ってもらうことが大切で、それをもとに何が課題なのかをしっかりと伝え、学んでいくことが大切という指摘はとても重要だと思いました。

**原田委員：** 今日の資料には、募集したアイデアの概要ということで表の6から順に一部紹介となっておりますが、たくさんアイデアを皆さんからいただいて、この場限りでの一部紹介で、公表される資料などでは全てになるのか、教えていただければと思います。

**浅利委員長：** 重要なご指摘をありがとうございます。次の議題にもつながるんですけど、いったん事務局の方からご回答をいただけますか。

**事務局：** 今回のアイデアですが、数多く意見をいただきましたので、今考えていますのは、県のホームページの方で全部公開して、県民の皆さんに参考としてもらいたいと思っております。その際文字に関して、分かりやすい表現などに変えるかはこれから考えますが、一応全部ホームページで公開していきたいと考えております。

**清野委員：** たくさんのご応募をいただいて本当によかったと思います。5 ページに都道府県別応募人数というのがあります。地元の沖縄の方はもちろんですけれども、それ以外の県の方からもいただいております。これで見えておきますと、例えば沖縄の次に多い神奈川県、あるいは、ここで出てくるような場所は、いずれも結構自分たちでもビーチクリーンをやっている人が多そうとか、活発なところとお見受けしております。

この応募してきた方々の経路などは分かりますか。キャッチフレーズの応募一般というところで、特にテーマにはあまり関わらずなのか、それとも環境問題というところに引っ掛かっているのか、そのあたりはいかがでしょうか。

**事務局：** 応募された経路ですが、考えているところとしては、海浜清掃活動団体など NPO 法人にメールで今回の募集を周知啓発、周知告知しておりますので、そういったネットワークを通じて応募しているの一つ感じております。また、別の方向としては、公募まとめサイトの公式 SNS で拡散されており、リツイートの内訳を見ていくと結構、海浜清掃などで活躍されている方のアカウントにリツイートが回っていたので、そこから経由して関心を持っていただいて応募されたという見方もできます。

**清野委員：** そういう意味では、私が先ほどコメントさせていただいた、自分たちでも拾ったり、そういう問題に直面している方が、いろんな意味で情報を目にした後もシェアしていただいたり、そういうこともバックグラウンドにあると思えました。その方たちの目にも届くような最終成果物というか、それも伝えるようなことができればと思えました。

**浅利委員長：** ちなみにこの方々は皆さま連絡が取れるような状況なのでしょうか。というのは、今回の結果や、最終的な提言などができたり、今後アクションをしていくにあたって、そういうことの発信先になり得るのかという意味合いでの質問ですけれども。

**事務局：** 今回の募集について、原則としてはアイデアとキャッチフレーズの応募以外には使用しないとしておりますので、そちらの使用については、決裁等々が必要になってくる部分と考えております。しかしながら、情報を発信するときにおいて、ジャンルと申しますか、どういったところに発信すべきなのかは応募状況から見えてきている部分はありますので、情報の発信の仕方など、ある程度絞り込みし参考にできると考えております。

**棚野オブザーバー：** 情報共有と確認をさせていただきます。

情報共有からすると、経済界では、観光業界寄りの話ですけれど、ボランティアリズムという考え方が新しくハワイなどから起こってきています。「観光した先でボランティアをすると何かいい事があります」というのが、一部海外で起こってきています。それを沖縄でも積極的に立ち上げていこうと思っています。ご提示されている応募アイデアの中には、ボランティアリズムに近いものが非常にたくさんあって、アイデア源としてありがたいと思っ

て見えていました。その意味で、質問と確認ですが、ホームページに公開されるこのアイデア集は、これを事業者が自分たちのプランをつくる時に参考にするという使い方をしていいのか、確認させていただきます。もちろん問題ないと思いますが。

ホームページで公開されたアイデアを事業者が参考にしていいですかという確認です。

**事務局：** 募集要項の中では、アイデア等々の権利関係について県に帰属すると募集要項では設定していますが、事務局側で調整、確認した上で、使用可能か正確な回答をさせていただきます。

**浅利委員長：** では、またそのあたりも含めて、今後の情報もお待ちしたいと思います。今のいただいたアイデアも含めて、次の議事にもつながってまいりますので。

では続きまして、次第4、資料3、提言（案）の説明の方に入っていただきます。これが今回かなり大きく手を入れるとするならば、最後のチャンスとなりますので、今聞いていただくのと、いったんお持ち帰りいただいてご検討いただくことも含めまして、皆さまのお声がきっちりとして入っているかどうかご確認いただきたいと思っております。

#### 4. 審議

提言（案）について

- ・ キャッチフレーズ及びアイディアの提言への反映について
- ・ 提言内容の構成等について

**浅利委員長：** 特に前回の皆さまからのご意見への対応を中心に全体の説明をしていただきました。冒頭にもありましたけれども、意図と違うような方向で加筆されていたり、抜けている視点、冗長的な部分など確認いただき、ご自由にご発言いただけたらと思いますし、まだ全体に見直していただいているということと併せて、この場で全てフォローすることが難しければ、少し時間を取ってということも考えておりますが、それを前提に、この場で確認しておきたい、ご発言などございましたらお願いいたします。

**常盤委員：** プラスチック問題で今、世界的に注目を浴びているのは海洋プラスチックごみ問題、それからマイクロプラスチック問題です。日本でプラスチック問題がすごく今問題になっているかという、日本のプラスチックの消費量は増えていません。1990年の32年前にはプラスチック消費量は約1千万トンでしたが、コロナの影響もありますが、現在も1千万トンを超えておりません。プラスチック自体の性能が上がっているいろいろと使われているように見えますが、消費される総量が増えていない。

1990年、日本のプラスチック消費量はだいたい世界の10%でした。2020年、世界の消費量は約3億5千万トン、日本のプラスチック消費量の約35倍です。日本のプラスチック消費量は世界全体の3%以下となっています。特に沖縄の海でプラスチックごみが目立つのは、中国、東南アジアの経済発展によるものだと思います。今後、アフリカなどの経済発展もありますので、海洋ごみが深刻になってくると思います。

プラスチック問題を議論するには、ごみ問題などプラスチックの負の面だけでなく、プラスチックの正の面についても議論しないと、30年前と同じ状況の議論になっていると思います。海洋プラスチックごみ問題、マイクロプラスチック問題とはやや違う問題が合体した

ようなかたちで混乱しているような感じがします。

もちろんプラスチックの基本的な問題は、化石資源を使って二酸化炭素を出すということがあります。現在、原料を化石資源からバイオマスなどの再生可能資源へ転換することも求められています。一方、プラスチック素材は自動車や航空機の部材にも広く使われそれらの軽量化に役立ち、二酸化炭素の排出削減にも貢献しています。さらに今後、プラスチック素材は、製造過程で大量の二酸化炭素を発生するセメント、ガラス、アルミ、鉄などに代替する分野にも用途を拡大していくと思われれます。半世紀以上の使用に耐えるプラスチック素材は、建築・インフラ資材としても有望です。

海洋のプラスチックごみ問題、さらにマイクロプラスチック汚染が海洋生態系だけでなく人への影響も深刻になってきており、早急な対応が必要です。

**原田委員：** 今のご指摘にちょっと補足します。日本が減っている、生産量、使用量が減っているというのは確かに微減しています。そんなに大幅に減っていると私は感じませんが、人口減少の影響なども非常に大きい。あるいは軽量化など、もちろん技術の進歩もあると思います。今東南アジアあるいは中国の経済発展で大量に海洋にプラスチックが流出しているというお話もそのとおりでと思います。

ただ一方で、世界最大のプラごみの輸出国は日本なんですね。要はリサイクルの資源という名目で。国内でのリサイクルが全然十分ではなく、実は、日本の国内でのプラスチックごみのリサイクル率は15%ぐらいしかありません。ですので、これはどこの国がという話をして、特に今回は県のレベルの話ですので、あまり議論が飛躍し過ぎる、焦点がぼやけてしまうのかなと。

翻って沖縄の問題を見ますと、やはり県の中でのリサイクルが十分に、離島ということもあって難しいという現状がある。まさにこの日本の縮図のようなことが起こっているわけですね。ですので、例えば沖縄県、リサイクルができるといっても、それを九州、あるいは本州の方に莫大なエネルギーをかけて、あるいは台湾などに運んでも、それはそれでどうなんだというお話になりますから、やはり今沖縄県としてやらなければいけないことは、一つには、まず現実に観光産業は重要な産業ですけど、そこに、地理的に沖縄の場合は特に中国、東南アジアからたくさんのプラごみが流れ着いている。これをどうするんだという問題があります。

調べてみると、県内からの流出も決して無視できるような量ではない。ということは、そもそもの使用量を減らしていく。それは結果的には県内でのリサイクル率を高めていく。あるいは、理想を言えば、県内で処理できる範囲まで削減していく、そういうステップが必要なのではないかなというふうに、ちょっと今常盤委員のご発言を伺っていて感じましたので補足させていただきます。

**浅利委員長：** ありがとうございます。うまく原田委員の方でクリアにさせていただいたのかなと思います。

**村上委員：** 気になったところをまずコメントさせていただきます。3ページの「離島特有

のリサイクルの課題」で、グラフを付けていただいておりますが、このグラフだけでは分かりづらいと思っています。

まず一つは、沖縄と全国の対比であるので、沖縄と全国の2019年だけでいいと思います。それから、これは1人当たりのリサイクル量のグラフですよね。沖縄県民の方が出している量が少ないのも上の数字で分かりますが、1人当たりどれだけ出しているのか、そのうちのどれだけリサイクルになっていて、その内訳はどうかというのが1本の棒グラフで、横軸でもいいと思いますがそうするともう少し伝えたいことが分かりやすくなると思いました。出している量は少ないけれども、リサイクル率はかなり低くて、結果的に資源循環している部分が少ないというのが2本の棒グラフで表現できると思いました。

それから、3ページの2番のところです。「世界・国内の動き」のところで補足していただいております。ここも1番の「沖縄県の状況」と同じように、小見出しを付けると何を書いているのかがより伝わりやすくなると思います。

例えば最初の一つ目、二つ目ぐらいのパラは、「海洋汚染と気候変動」、その次の世界の動きのところでは、「廃プラスチックの輸出規制」、その次は、「使い捨てプラスチックの規制強化」のような感じで、世界の動きが小見出しで分かるようにすると、沖縄はどうだろうというふうに翻って、この次にどういう対策が出てくるのかが想定しやすく、伝わりやすいと思いました。

一番今回の編集で気になったのは、7ページの「重点対策」を書き込んでいただいたところです。重点対策で普及啓発とコミュニケーションが重点なのかということ、私はちょっと違うと思います。これまでは新しいライフスタイルの転換ということを出して共感していたのですが、ライフスタイルへの転換を進めるための手段の一つが環境教育や普及啓発であって、ほかにも規制的な手段、経済的インセンティブ、そういった手法はいくつもありますが、どうやってライフスタイルを転換させていくのか、どちらの方向に行くのかという具体的な中身の方を書くべきなのではないかと思いました。

その一つが、先ほど原田委員がご指摘されたような、ワンウェイを減らして県内で処理できるサイズまで発生抑制する、そういうメッセージが必要だと思いました。

**浅利委員長：** 特に最後の点が非常に重要な点かと思えますし、私も同意するところですが、ちょっとだいたい構造を変えないといけないのかもしれませんが。

**久鍋委員：** 私としてはよく分かる内容ですが、今から言う点だけ少し確認をしたいです。皆さんの意識の中でキャッチフレーズをつくって、募集があつて、それを使って人にさらなる啓蒙をしていこう。ただ、これは私の主観かもしれませんが、ここに参加をするキャッチフレーズを書く方、たぶん沖縄県でも数十%の人は高い意識の人がいて、積極的な参加をしていると思う。本来はそこじゃない層、そこの残りの7、80%の層に何を訴えかけるのかというのが、実はこの中ではちょっと分かりにくいと、正直、聞いていて思っています。

では例えばキャッチフレーズを書いて、沖縄県の人にやってもらいたいこと、たぶんこの文全部では分からないと思います。例えばそれを七つの要点なのか、何点でも構いません、

そういったものをちょっと具体的に入れるだけで、残りの7、80%の人が、聞くことはたぶん皆さんよくあるんですけれども、行動しようという気になるような仕組みにした方がいいのではないかというのが一つ目です。

もう1点は、このアンケート、またいろんな案がたくさん載っていますけれども、たぶんほとんどの人が一度は考えた案だと思います。そこに対して逆に「沖縄だから」というものを何か決めていく方がということは前回も言っていますけれども、例えば今ずっと話が出ているペットボトル。では沖縄県でつくったペットボトルは全部ラベルレスにする。それだけでも実はプラスチックの量は削減できると思いますし、また実はたぶん沖縄県の、赤嶺委員がいらっしゃいますから、ごみの回収の際にこのラベルを外す大変さは、消費者も、逆に今度は販売をしている販売者の方も大変な部分があります。プラントをつくるのはちょっと先かもしれませんが、まだできる項目はたくさんあると思いますので、ぜひ検討していただいて、また企業間の中でそういった連携ができればありがたいと思います。

**浅利委員長：** 今のことをどういうふうに表示するのか。今回、県民の中でのターゲットみたいな話はそんなに出ていないと思うので、それをもうちょっと冒頭で出すようなかたちにするのかなど、そのあたりも検討する必要があるのかなと思いました、非常に重要なご指摘かと思います。

**原田委員：** 今の久鍋委員のお話を伺っていて思ったのですが、28 ページで私の提案ということで具体的な計画の策定を挙げていただきまして、ありがとうございます。やはり例えば経済界の企業の皆さんが何かこの県の施策に対応していこうとなったら、具体的な計画でないとなかなか分からない。べつに反対はしないが、何をしたいか分からないということが往々にして起こりがちですね。

文言の修正をお願いしたいのですが、3行目のところで、そこで「数値目標を掲げてもよい」と書いていただいています、そこで例えば「期限を切った」というふうな言い方がよろしいので、期限を設けたといいますか、要はいつまでに、どれぐらいのことをすればいいという、「いつまでに」というのも数値目標と同じくらい大事なお話だと思いますので、細かい言葉はお任せいたしますが、可能であれば期限を切った数値目標ということが伝わるようなことにしていただければと思いました。「掲げてもよい」だとちょっと弱いかと思いますので、「掲げるべきである」とか、少し強い表現に改めていただけたらと思いました。

次の29ページのところですけれども、一つ目に大手コンビニエンスストアと提携してと、タンブラーを持参した人には割引で提供できるようにする。これはコンビニさん、お店によってはもうすでに取り組みされていることでもありますが、これを広げていくことかというふうに受け止めたが、その下ですね。「個人には可能な限りマイボトルの持参を推奨する。飲料メーカー（企業）ではペットボトルを紙パック、アルミ缶ボトルへ移行する取り組みを実施する」。ここにもやはりマイボトル。コンビニに限らず、マイボトルなどの繰り返し利用が可能なかたちのボトルでの提供への転換。

全部が全部とは言いませんけれども、実際今、例えば大阪のユニバーサル・スタジオ・ジ

ヤパンでは、タイガー魔法瓶とコカ・コーラが一緒になって、まだ今はミネラルウォーターあるいは炭酸水に限定ですけれども、この実証実験をすでにお始めになっていますし、福岡ソフトバンクホークスは、タンブラー、マイボトルを持ってきた人に、いわゆるサブスクで、ドリンク飲み放題の提供、これも実証実験が今すでに始められていますので、例えば最初のうちはイベントと連携しているかもしれませんが、企業の側、販売者、事業者の側にもマイボトルでの提供を広げていくような取り組みを一緒にしていくことを求めるべきではないかなと思いました。

**清野委員：** 沖縄らしさみたいなのところをどういうふうに訴求するかというのは重要だと思います。具体的なところからこの資料3の中で、沖縄の地理的な位置で、1ページ目の下から3行目ですが、「沖縄の島々は本土と東南アジアとのほぼ中間に位置しており」とありまして、東南アジアというと、結構もっと南の方になってしまう気がします。沖縄の皆さんがアジアとの位置関係というのを、たぶん沖縄の人たちがしっくり来る表現があると思いますので、本土というものを意識されるのか、それとも、もっと何か日本も含めていろんな国の海の交差点みたいなのところにあるというふうに、津梁会議なので、そういう海洋学的、地理学的位置を書くのかということで、ここは東南アジアではないかかもしれないと思いますのでご検討ください。

ほかの委員の皆さまのお話も伺いながら、あらためて思っていました、これは沖縄の県民の方ができることとか、やっていただきたいこと、一緒にやっていきたいと思いますというのではあると思うんですけど、海岸ごみに関しては、やはり海外が本当に多いので、海外のものが多くことが当たり前ようになっていて、自分たちで拾ってもしようがないんじゃないかとか、自分たちのものが多少追加されても目立たないんじゃないかという状況があつてのことなので、そこにどのくらい向き合った書き方をするかだと思います。

非常に皆さんの意見を入れて手堅くまとめておりますが、それを出したときのインパクトというか、沖縄が抱えている問題について、沖縄だからこそというところを、やっぱり海外との関係も含めて、この沖縄県民の方が頑張られて、どこにそれが伝わっていくのかというような、外への視線ももうちょっと書いていただいていた方がいいかなと思っています。

それは、29 ページのところに「国際的な交流事業、連携」と書いてありますが、アジアの海洋ごみ問題は、連携と交流をベースにしながらか、もうちょっと戦略的に実行的に進んでいくという段階に入っていると思います。そのときに沖縄としては、自治体ではあるが、このように非常に大きく海外からのものも来る自治体としてどのように振る舞うのかということがもっと明確に書かれていた方がいいと思います。

例えば、沖縄県としてリーダーシップを取っていくとか、同じように島であり海外のものもあるようなところとも連携をしながら、国際的にももっと動いていくというようなことを、最後の方になるのかもしれないですけど、ちょっと宣言みたいなかたちでもっと書いた方がいいという気がします。この会議の目標が提言ということで、知事への答申ということだと思いますが、もうちょっと沖縄県ならではの位置付け、可能性を、知事が「あ、これ

か」と思うようなところを見えやすくした方がいいのではないかと思います。

だから本当は、来週から「国際海ごみ会議」が釜山で1週間ほどあります。そのときに、特にアジアの海の状況をどうするかという議論が、ワークショップやセッションなどで行われて、各国がある程度のアイデアを持ちながら議論を始めています。そういう中で、その中心にあるのが一つは沖縄だと思いますので、そういった国際情勢の中で戦略的なこの提言を使っていただく目線を入れていただけたらなと思っています。

**浅利委員長：** 先ほどのものに加えて、外からと中からの目もしっかり意識して、沖縄の力をちゃんと肯定的に捉えて進めていくということで、難しいですけど、非常に重要な指摘かなと思います。

ちょっと私から、すごく一つは細かい点で。皆さんからもかなり大きな指摘をいただきましたが、4ページ目の「6つのマイルストーン」ということで、国のプラスチック資源循環戦略を紹介いただいていて、先ほど原田委員がご指摘いただいた数値目標のところでも、ここに関わる表記が。これは使い捨てプラスチックだけを取り上げて言っていると思いますが、この目標自体が基本的に世界の大きな目標にちょっと上乘せしているような目標になっていると思います。

先ほどの原田委員の数値目標をいつまでに期限を切つてという話は、やっぱりこれを一つの指標にするというのはベースとしてあると思っていますので、また原田委員とも相談しないといけません。先ほどの数値目標のところでは、「国や世界が定めた6つのマイルストーンにも照らし」のような感じの一文を入れておいていただいてもいいのかなとは思いました。

あと今回、ブルーでマークにして、アイデア募集からのご意見も拾っているかと思いますが、それも含めて、今回私たちがどういうふうに議論してきたかというような経緯なども分かる一枚があってもいいのかなという気もしております。

冒頭もしくは最後の方に、この万国津梁会議ということで答申を受けた議論に加えて、途中でキャッチフレーズと併せてアイデア募集もして、そのアイデアの一部も取り込むかたちでまとめたという経緯が分かるものがあるのかなと思いましたが、またご一考いただければと思います。

**赤嶺委員：** 皆さんのさまざまなご意見を聞いて、ごもっともだなと思っています。先ほどやはり沖縄らしさというところが出ていますけれども、私もそれが大切だと思っています。プラスチックも含めた、環境に関しては厳しい沖縄であって、環境に対しては優しい沖縄であるということがまず沖縄らしさの表し方なのかなと思っています。

そんな中で具体的なお話をさせていただきますと、シンガポールなどは非常に環境に対しては厳しい規制を設けていますし、沖縄県として知事の方に答申するのであれば、それぐらい思い切ったことをやっていく。全てじゃないですが、ペットボトルに関しても、回収方法は先ほど久鍋委員からもありましたが、ペットボトルから始めるのは、皆さん2割の人はしっかりやれるけれど、残りの7、8割の方がということもありましたので、その方々も

ペットボトルなども利用しますので、その方々に意識させていくには、まずラベルを外すとか、小さなことからでもいいですけど、一つ一つ優先順位を付けて取り組むようなかたちを取っていくといいと思います。そんなに難しいことではないと思いますね。

併せて、本当に100%の人に伝えて、意識して行動させていくには、やはり自治体のごみ収集の在り方ではないかと私は思っていて、その方法と統一していくということで、ごみを処分するときに迷いのないような取り組みに持っていきけると早く広がっていくのではないかと思います。

ちょっとまとめるのは難しいかもしれませんが、そんなのが提言書に入れられて、行動に起こせることはあると思いますので、小さなところからでもいいですけど、それを沖縄らしさというのは何なのかというところで組み込むといいのかなと思っています。

**浅利委員長：** 先ほどの久鍋委員からもあったように、受け皿としてやりやすいやり方を考えていってあげるということは行政としても重要な点かと思っていますし、これ以外にも県の通常の関連した委員会であったり、プラスチック等に関してまた別途委員会を設けてご議論いただいているかと思っていますので、そことも連結して、ぜひとも誰もが参加できる、みんなの善意を育てられるようなそんな仕組み、そういう意味で沖縄らしい、優しいといえますか、そういうかたちも模索していけたらなと思っています。

**清野委員：** プラスチックの問題、海の問題も、誰がどういうふうに責任を負って推進していくのかという体制をもうちょっと書き込んだ方がいいと思います。今回書いていただいている推進体制の構築ということで端的にまとめられてはいますが、この提言が出された後、県の行政の中でどこが、どの部局がどういうふうに引き受けて、どういうふうに展開していくのかというのがちょっと見えにくい気がします。

そのために、さっき原田委員からいろいろ計画ということがあって、この次の段階のより具体化する施策のレベルで引き受ける場所を見える化した方がいいという話だったのかと受け止めています。そこについてはこの段階でもうちょっと書き込むべきだと思います。事務局の方でお考えとかがあったら伺いしたいと思います。

**浅利委員長：** 今までの委員の話の中でも一言申し添えておきたいことがあれば、今の清野委員からのご指摘へのご回答と併せて、事務局よりご回答をお願いしたいと思います。

**事務局：** 原田委員から28ページの具体的な計画の策定で、期限を区切った目標値の設定という文言の追記、浅利委員長の方からは、4ページのマイルストーンとの整合性、その部分を入れるといった修正などのご意見がありました。

それから、浅利委員長の方からこの提言案に入れてある各アイデアについて、入れ込んだ経緯を冒頭に記載してほしいとご意見がありましたので、経緯を追記しアイデアはそのまま提言中に入れるということでよろしいでしょうか。

**浅利委員長：** はい、そうですね。

また、特に最後の清野委員からご指摘があった、県としてこれをどういうふうに展開していくかについては、今現状でつくってきていただいている、こういうかたちで展開できるか

なというアイデアがあれば、ご発言いただきたいと思います。

ほかの個別の意見については、建設的な部分、具体的な考えは後日、議事のまとめと併せてご検討をお願いします。

**事務局：** 清野委員からのご意見で、海ごみについて誰が責任を持つのかということにつきましては、今の段階で記載可能なことがあるか確認します。

万国津梁会議は環境整備課と環境再生課が担当課で、特に海ごみについては環境整備課が所管しておりますので、この部分はそのように記載可能だと思います。ただ、再度提言を受けまして、県全体で取り組まなければならないことなので、環境部だけではなくて、知事とも相談しながら進めていくことになると思っております。記載の仕方などについてはまたご相談していきたいですが、よろしいですか。

**清野委員：** 基本的にはそういうことでよろしいと思いますが、横断的な施策で、かつ、わりとこの規模の人を集める目立つ会議のあと、意外とその後しぼむことなど今まで多いです。そのパターンにならないように、策定時の部局は元気だったので、その直後の部局を本気でやれる部隊と、やらざるを得ない座組みのようなものを県庁の中で整えておかないと、次の年にいきなりこけるとかがあります。

沖縄県はそうならないように、県庁の中でも関わる人がどういうふうにもこの提言を受け止めて展開していくか、この会議の最中から入れておいた方がいいと思います。

これはすごい重要と思っているのは、いろんな予算編成などをやっていると思うのですが、そのときに今の段階で相手方になるようなところに、環境部局でこういう議論をしているから、それを県として展開するときには、相手方がそれを受け止められるような項目なり事業なりを書いておいてもらわないと、丸々1年損をすることもあります。

ですから、提言自体が各部局に配布、伝わるのはもっと後のタイミングになると思いますけれども、そういう内部調整は今のうちからやっておかないと、提言が出た直後から、受け止めかねるということになってしまうと思います。ですから、県民に、民間で頑張りましょうとか、協力してくださいというわりに役所内合意が取れていないということにならないように、実はそこが一番大変かと思いますが、ぜひお願いいたします。

そうしないと、県庁が本気というふうになっていないと、特に民間企業も「あれ、何で？」と思うようなことが発生することもあるので、ぜひご検討ください。

**事務局：** 事務局で検討していきたいと思います。

**浅利委員長：** そういう意味ではこれ、今回最初からのご意見でも、プラスチックごみじゃなくてプラスチック問題であったり、循環経済に向けた一つの象徴的な対象なのかなと思っておりますので、清野委員がそうおっしゃっているのも、おそらく花火を上げて、それを上げ続けるという意味合いではなく、いかにこれを主流化していくかということかと思っておりますので、うまくそれぞれの各行政の足腰を鍛えることにつながっていくようにうまく切り取って、これをある意味武器にさせていただいて、影響を及ぼしていただけるとすごくありがたいなと。推進力にさせていただけるとありがたいなと感じておりますので、ぜひともう

まく戦略を練っていければと思います。

国からいろんな予算を取っていくにしても、こういうものがあって、こういうものをやりたいたいからと言って取りに行くとか、いろんな使い道があると思いますので。

**事務局：** 清野委員の今のお話、提言を受けて県で検討いたします。組織内部の権限全てが環境部にごさいませんが、できるだけそのようなかたちに持っていけるような提言（案）にするなど、今後調整していければと思っています。両方できるように県も頑張っていきたいと思っています。

**原田委員：** 27 ページの⑤、「資源循環に向けた街づくり」のまちに「街」という漢字を使っていますが、平仮名の「まちづくり」というのがいわゆるまちづくりを表す言葉として一般的に定着しているという気もしますので、ほかの施策との整合性という意味であれば、チェックいただけたらと思います。

その上で、中期的な取り組みというのが、資源循環に向けたまちづくりと、あとブランディングは海産物だけではないと思います。例えば探求型修学旅行の誘致というのが一つ上には掲げていますが、例えばそういったことを通じて、客単価を上げていくということが非常に大事な視点かと思っています。

今、例えばハワイは、コロナからの回復の過程で非常に環境規制を厳しくやって、以前のようなオーバーユースにはならないように客単価を上げて、日本人が行くのにかなり高額になっています。客単価を上げて、皆さんが本当に疲弊せずにしっかり生活していける、それがおそらく「まちづくり」だと思いますので。単に資源だけが循環するのではなくて、お金もしっかり循環するという意味で、入れる場所は一任しますが、端的に言うと客単価の向上といったところを盛り込んでいただけたら、「なるほど、そういうことか」と皆さんのご理解も得やすいと感じました。

**村上委員：** 先ほどの清野委員の指摘に関連して、私も一言申し上げます。28 ページの提言2の②で、計画策定のこと書かれていますが、例えばこれを県の審議会、環境審議会などにきちんとテーマとして位置付けてバトンを渡すなど、すでにある仕組みの中でしっかり議論していくことが一つ考えられると思います。またそのときに、商工関係の審議会などがあるのでしたら、連携して合同審議会のようなかたちにするなど、県全体として具体化を引き受けることも検討していただきたいと思っています。

また、Ⅲ重点対策の書き方ですが、これはⅣ章をそのまま引っ張ってきているから分かりづらいと思います。例えばワンウェイを減らす、海ごみの対処をアジアの国々とともに進めるなど、そういうキーメッセージをここに持ってきて、それに対応する提言は何番の何というふうにも付けられるようなつくり方もできるのではないかと思います。

沖縄らしい対策として打ち出せるのではないかと考えて私がとても期待しているのは、15 ページの「サトウキビ等を原料とした代替製品の普及」です。これは、ワンウェイをなくす、有料化する、有料で出すときはこういうバイオベースのものにするという、そういう方向で進めていただきたいと思っています。その代替品には、素材そのものがストローになる麦

のようなものもあれば、バイオプラスチックもありますが、バイオマスプラスチックだからといって生分解性であるとは限らないという、とてもややこしい問題があります。そうなる、海ごみ問題は解決しないという話にもなるので、そこは正しく情報が伝わる書き方をさせていただきたいと思います。さらに言えば、生分解性プラスチックでも、海洋生分解性であるとは限らない。さらにハードルが高くなることも示した上で普及させていただきたいと思います。

**栩野オブザーバー：** 村上委員の先ほどの「Ⅲ.重点対策」の書き方は私も同感で、見出し絵を、例えば「Ⅲ.重点対策」ではなく「目玉戦略、目玉施策」などにしてはどうでしょうか。全体を象徴するような意味で、今までと違うものをバチッと出すと、とてもよく分かるのではないかと考えております。

**浅利委員長：** これはもともと私が発言して、もうちょっと重点的なものが分かるようにと言ったところから始まっていますので、せっかく設けるのであれば、皆さまからのご意見も受けて、1ページ程度でそれだけ見ても沖縄らしさが伝わるものが検討できればありがたいです。

**久鍋委員：** 何点か確認させてください。原田委員のおっしゃった「マイボトルを持ってきて」。これは企業としてやろうと思えばできます。「海洋分解性のプラスチックを使え」もできます。ただ、当然それがあると、HACCP（ハサップ）や保健所の問題があり、海洋性プラスチックも、その後の効果検証を国や県は出してくれないです。

だから企業家として企業で使って、それが本当に正しいのであれば、使うことを進めていくことはできます。ただ、それが本当に使っているのか。いいという意見がほとんどですが、先ほどの保健所も同じですが、何かあったときにほとんど企業でやらないといけません。

だから、マイペットボトルの持参も、今日、食中毒の問題が全国で大ニュースになっていると思いますが、そのような問題に対してのリスクが実はすごく、そこを本来は県や国の方で、こういう対策の中でやってくれというのを明確にしてもらえれば、私たち含めいろんな企業が参加しやすい体制になると思います。これは私たちではできない部分ですので、ぜひ県や市町村との連携の中でそういった対応を示していただきたいと思います。

それともう1点は、今日の話の中で時間軸という話をしています。時間軸をきちんと横軸に出して、項目をきちんと縦軸に整理し、そしてその中で、個人、企業、地域という、やる目的というものを示していただいた方が、私たち企業としても個人としても、やる目標設定がはっきりしますので、取組がさらに一歩進める段階になると思います。この中にはなくこのような会議、また勉強の中でできるようにしていただきたいと思います。

また、企業家として話をすると、例えば項目の中で学校の授業はいろんな啓蒙活動がたくさん書かれてくるんですが、例えばこれを、県の指定授業にできないのですか。そのような発想でやらないと「沖縄県の学校にはこの授業が指定をされている」、それだけで、沖縄県の環境、もしくは、ごみ対策の意識づけのやり方が変わっているんだと。たぶんその子たちがネットを通じて全国に発信をし出すと思いますが、そういう授業に入れる。人の問題はあ

るかもしれませんが、そういったものを逆にこういった場で決めて、さらに一歩二歩先を行けるような議論をさせていただければと思います。

最後に、前回も言いましたが、常盤委員の方が詳しいと思いますが、本来は沖縄、回収した後をどうするか、再利用をどうするか、これもある程度方向性を付けないと、一企業単体でできるレベルでは限界があると思っています。ぜひそこら辺の部分も、時間軸の中である程度一緒に話せるようにしていただきたいと思っています。

**清野委員：** 先ほどボランツーリズムのお話ですが、10月1日に長崎県の壱岐市でボランツーリズムの9回目ぐらいを行います。観光の方は、ごみを拾いに来てもらうというのをPRすること自体不安に思われることもあると思います。ハワイの事例などいろいろお話が出ておりました。ですから、事例の中に、国内でもそのようなかたちで地元の高校生などと一緒に拾う、観光に来た人がこの島を一緒に盛り上げていこうとしている、類例を入れていただけたらよいと思います。実際本当に観光に入れるということに大筋では賛成ですが、本当にやるとなると不安感は地元の観光関係、地域からも出るので、せっかく今日は商工会の方からもいただいたので事例をご報告します。また詳しい情報を送りいたします。

**浅利委員長：** 今回いただいたご意見で最終案を作成していただいて、次回が最終回、その後3月に知事への最終報告となりますので、あらためて見ていただいて、逆に今のようなお話で、入れたほうがいい事例などもまだ間に合うと思いますので、お願いしたいと思います。

次回に関しましては、提言には盛り込みきれなかったけれども皆さまのご意見に対してこう考えていますというようなことも併せてお話しただいて、単に確認して終わりではなく、その次につながるような会にできたらと思いますので、事務局におかれましては大変かと思いますが、もう一步お願いしたいと思います。

以上で今回の議題に関しまして皆さまからのご意見をいただきました。闊達なご意見を本当にありがとうございました。

(終了)